

Economic Indicators

発表日: 2021年9月3日(金)

主要経済指標予定(2021年9月6日~9月10日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム (TEL: 03-5221-4525)

(9月6日~9月10日の主なイベント、指標予定)

	指標名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
9月6日 (月)					
9月7日 (火)	8:30 7月毎月勤労統計 名目賃金(前年比)	—	—	—	+0.1%
	8:30 7月家計調査(二人以上の世帯) 実質消費支出・全世帯(前年比)	+2.9%	+2.9%	+1.0%~+5.2%	▲5.1%
	実質消費支出・勤労者世帯(前年比)	+4.2%	+3.3%	+0.1%~+4.2%	▲6.0%
	8:30 7月家計消費状況調査				
	8:30 7月家計消費単身モニター				
	8:30 7月消費動向指数				
	14:00 7月消費活動指数(旅行収支調整済) 実質季節調整済み(前月比)	—	—	—	+2.7%
	14:00 7月景気動向指数・速報 CI一致指数(前月差)	▲0.1pt	▲0.1pt	▲0.3pt~+0.3pt	+2.4pt
	CI先行指数(前月差)	▲0.6pt	▲0.5pt	▲1.0pt~+0.1pt	+1.5pt
9月8日 (水)	8:50 4-6月期GDP2次速報 実質GDP成長率(前期比)	+0.4%	+0.4%	+0.1%~+0.6%	+0.3%
	(同年率)	+1.5%	+1.6%	+0.3%~+2.3%	+1.3%
	名目GDP成長率(前期比)	+0.1%	+0.1%	▲0.4%~+0.4%	+0.1%
	GDPデフレーター(前年比)	▲0.7%	▲0.7%	▲1.0%~▲0.7%	▲0.7%
	8:50 8月貸出・預金動向 国内銀行貸出残高(前年比)	—	—	—	+0.7%
	8:50 7月国際収支統計 経常収支(原数値、億円)	+23,021	+22,882	+18,893~+25,377	+9,051
	13:30 7月特定サービス産業動態統計調査				
	14:00 8月景気ウォッチャー調査 現状判断DI(季節調整値)	41.4pt	45.2pt	41.4pt~48.4pt	48.4pt
	先行き判断DI(季節調整値)	42.0pt	46.2pt	42.0pt~50.1pt	48.4pt
9月9日 (木)	8:50 8月マネーストック M2(前年比)	+4.6%	+4.6%	+4.3%~+4.9%	+5.2%
	M3(前年比)	+4.1%	+4.1%	+3.5%~+4.3%	+4.6%
	広義流動性(前年比)	+5.2%	+5.1%	+3.0%~+5.3%	+5.5%
9月10日 (金)					

4-6月期GDP 2次速報・実質GDP成長率 **当社予想：前期比年率+1.5% 中央値：同 +1.6%**

前期比年率+1.5%（前期比+0.4%）と、1次速報の前期比年率+1.3%（前期比+0.3%）から小幅上方修正されると予想する。法人企業統計の結果を受けて、設備投資が上方修正されるとみられることが影響する見込み。もっとも、修正幅自体は小さく、景気認識に変更を迫る結果にはならないとみられる。4-6月期はプラス成長とはいえ、1-3月期の反動の域を出ない。均してみれば21年前半の景気は低調な推移が継続していたとの評価が妥当。

（経済調査部長・主席エコノミスト：新家 義貴）

7月実質消費支出（二人以上の世帯、全世帯） **当社予想：前年比 +2.9% 中央値：同+2.9%**

実質消費支出は前年比+2.9%とプラス転化を予想。7月12日に東京都に対して緊急事態宣言が発令されたが、対象が東京都と沖縄県に限定されていたことに加え、コロナ慣れ等もあって人出の減少度合いが限られていたこともあり、7月の段階では個人消費に目立った落ち込みは見られないだろう。一方、8月からは宣言対象地域が拡大されたことに加え、感染者数が急増したこともあり、サービスを中心に8月以降の個人消費は落ち込む可能性が高い。

（経済調査部長・主席エコノミスト：新家 義貴）

7月景気動向指数 CI一致指数／CI先行指数 **当社予想：前月差 ▲0.1pt／▲0.6pt 中央値：同 ▲0.1pt／▲0.5pt**

CI一致指数を前月差▲0.1ポイントと予想する。内訳では、小売業販売額や有効求人倍率がプラス寄与となるものの、鉱工業生産指数や生産財出荷指数などが押し下げ、全体としては僅かに低下する見込み。なお、内閣府によるCI一致指数の基調判断は5ヶ月連続で「改善」が予想される。

（経済調査部長・主席エコノミスト：新家 義貴）

7月国際収支・経常収支（原数値） **当社予想：23,021億円 中央値：22,882億円**

7月の経常収支は、23,021億円（原数値）の黒字と予想する。海外経済の回復に伴い輸出が好調に推移したことで、貿易収支は黒字幅が拡大する見込み。先行きについては、既にコロナ前の水準をはっきり上回っていることから、輸出の増加ペースは徐々に鈍化していくとみられから、貿易収支は緩やかに黒字幅が縮小していくだろう。その一方で、所得収支が支えとなることで、経常収支は底堅い推移が継続することが見込まれる。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

8月景気ウォッチャー調査 現状判断DI／先行き判断DI（季節調整値） **当社予想：41.4pt／42.0pt 中央値：45.2pt／46.2pt**

8月景気ウォッチャー調査の現状判断DIを41.4pt、先行き判断DIを42.0ptと予想する。現状判断DIは、感染急拡大に伴う緊急事態宣言の対象地域拡大によって、小売や飲食等の家計関連を中心に前月から大きく低下するだろう。先行き判断DIについても、緊急事態宣言が延長されたことから、先行き不透明感が強まっており、再び下振れとなるだろう。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

図表1

2021年4-6月期GDP2次速報予測

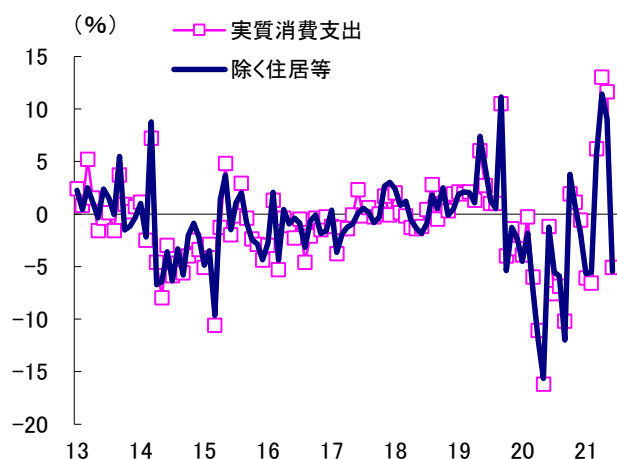
(%)	
実質GDP	0.4
(前期比年率)	1.5
内需寄与度	0.7
(うち民需)	0.7
(うち公需)	0.0
外需寄与度	▲ 0.3
民間最終消費支出	0.8
民間住宅	2.1
民間企業設備	2.0
民間在庫変動(寄与度)	▲ 0.2
政府最終消費支出	0.5
公的固定資本形成	▲ 1.4
財貨・サービスの輸出	2.9
財貨・サービスの輸入	5.1

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

図表2

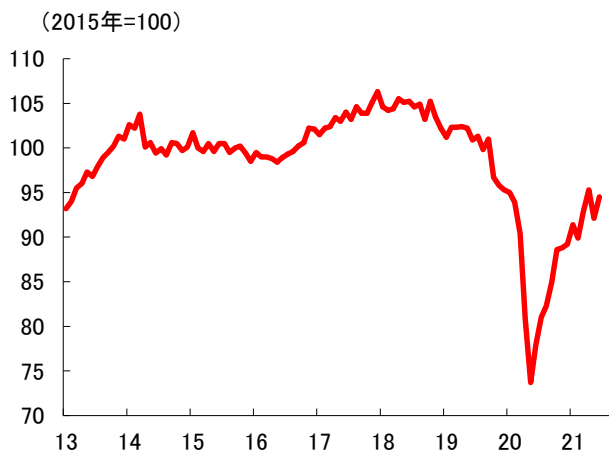
家計調査(実質消費支出・前年比)



(出所)総務省「家計調査」

図表3

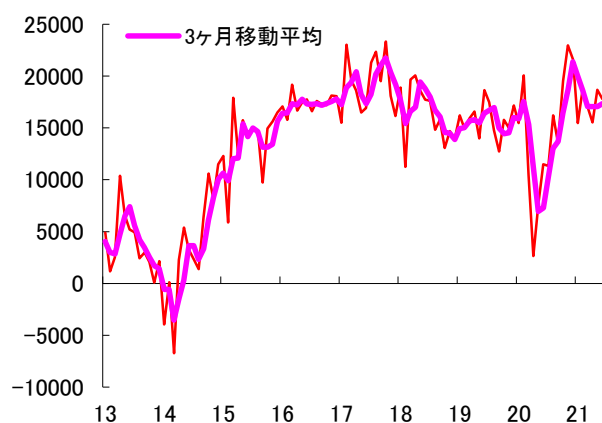
一致CI



(出所)内閣府「景気動向指数」

図表4

経常収支(季節調整値)



(出所)財務省「国際収支統計」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。